

10月2日 My 探究校内研修記録

● 1Gメンバー:清川先生(福井大学)、澤、田辺隆、窪田、入江、時下

○1つ目の柱

《普段困っていること》

・収束しにくい生徒について困っている。(どんどん広がっていく。ゴールが見えない。)

→そもそもなぜそこに興味を持ったのか。最初の入りが狭かったら、その後調べていくうちに広がるのも当たり前。スタートが木の幹だとしたら、枝葉にわかれていく。広がっていくことは悪くないが、そこで原点に戻って、何をしたかったのか。具体性を持たせればよい。

生徒と教師だけになると広がらない。中間発表会を開くとよい。例えば少人数グループで。いろんな人から意見をもらえるとよい。

このテーマを調べて何をしたいのか。自分のために何かをしたいのか、誰かのために何かをしたいのか等、具体化が大切。

(相談した生徒 A について)このテーマに関してはテーマにサブタイトルがあるとよい。テーマを聞いてこのことについて探究したのだと分かるとよい。

担当の先生も、ずっと同じ先生ではなく、担当を変わったり、専門の先生に見ていただいたりすることもよい。テーマが似たような子がいたら、一緒に見てもらってもいい。それによって知見が広がっていくこともある。今までの探究の記録することが大切。記録が大切と生徒にわかってもらうためにも、中間発表会を開くことが大切。

語っている人が一番リフレクションしている。

・具体化は時間がかかると思うが、具体化できていない子に時間をさいたほうがよいか。

→友達にも質問表を渡して、質問させるとよい。質問の観点を生徒に渡すとよい。それが自分を振り返る観点にもなる。

・調べ学習になってしまうのですが、どうしたらよいか。

→具体化してあげる。

「あなたはなぜそうしたいの?」「そうなることでどうなるの?」

SDGsにはつながるからあとからでも大丈夫! 具体化してあげることが大切。自分のためでも OK!

・探究の進め方について

→ずっと一人で進めると広がらない。

枝葉が増えて広がっていく時期もあるから、それを焦点化していく時期も必要。なぜなぜ?という問いかけをしてあげることが大切。その問いに答えられるかどうか。共同作業が必要。

・探究の評価とは?

→ルーブリックに当てはめるのが目的化してしまい、それはどうか?という意見もある。

評価がある方がやりやすいなら、上中中で作ったらいいと思うが、実態に合わせて作っていくことが必要。

・学校での探究は調べ学習の時間になってしまっている。

→行動する時間が必要。調べ学習だけにならないように。学校でしかできないことができるとうい。例)友達とディスカッション、実際にやってみる等

○2つ目の柱

・探究のゴールとは？

→探究はゴールがなく、途中で新たな疑問や研究してみたいことが出てくる。その繰り返し。現状や今後について発表できるとよい。続いていく。

ゴールがないと言ったが、いくつもゴールがあるということ。最終ゴールがない。

★埼玉県戸田市…戸田型 PBL の考え方を参考にするとよい。ネットにのっている。

● 2G メンバー：山中先生(嶺南教育事務所)、上野、宮川、田辺裕、校長

1の柱 生徒の関わり方について

・1年生、課題や疑問が見つからない生徒に対する支援方法

→調べ学習をすることで、課題や疑問が出てくるのではないか

→共通の学びから課題・疑問が出るのでは。

・生徒によって、進み具合の差が大きい。

・どんどん探究を進めている生徒は問題ないが、調べ学習で終わるような生徒が心配。

・テーマが主観的になっている生徒に対する支援。

・生徒によって、個人に閉じてしまう人と、広がっていく人の差が激しい。

コンシェルジュの方からの意見

・小3から高3まで総合ですることは統一されている。

・「ここまでできるようにならない」と考え焦るとしんどい。

・小学校での総合の取り組みを交流しても良い。

・サポートマニュアルが素晴らしい。

・教科の授業内容と個人探究の内容を関連づけると勉強意欲につながるのでは？

？本当に困ったときにだけ手を出すべきか？(下中)

・鳥羽市では、テーマ設定を決める段階で、目標から意義、ゴールまできっちりと決めている。→しんどい。

自走・当事者意識・次の研究につなげるためのメタ認知が大切。

2の柱 探究の目指すべきゴール

・ゴール設定、それぞれに合わせて

・途途中で評価をしていく時間があると、力が育つのでは？

・ルーブリックを使ってはどうか。

・自立・協働・創造に向かえばよいのではないか。

・調べ学習→振り返り→調べ学習→振り返り→…繰り返しても良いのでは。

・活動に軽重をつけるのはどうか。(例・二時間連続の探求や、探究のない週を作るなど)

・取材デイをもうけてはどうか。

→バスも方向でまとめられるし、教員も生徒の様子を見ることに割けるため。

・進め方の見直しをする時間があってもよい。

・もっと生徒同士の交流の時間があるとよい。(同学年だけでなく似たテーマの別学年など)

● 3Gメンバー:兼松先生(若狭高校)、吹田、中村、東、南

1年は完全個別の探究は初めて、2年生もチームはやっているが初めて、3年生はふるさと探究でチームとしては経験あり

2・3年は探究2回目 現在一斉に同じ段階で探究活動をしている。学年に応じて求めること、ステップを作り切れていない

→学年で段階は必要か不要か？

A. 若狭高校の評価基準は基本的には一緒。

学年でやっていることはちがう。1年で基礎、2年応用、3年まとめ

課題設定に力を入れている 課題設定能力がついていますかという評価基準
まとめについては、学科でつけたい力に応じて論文評価の基準を設定している

上中中で最もつけたい力は何なのか？

課題設定 探索 サイクル どう評価するか

学年ごとに決めなくてもよいのでは？

1年はこの評価だったけど3年ではこうだったねと評価できるとよいかも

自分で課題を探求する力をつけたい→サイクルが多い方がよい

ポートフォリオ:実験ノートや大学ノートで記録 ワークシートもあり PCで記録もOK

何月何日何を考えて何をしたかを書かせる

週1だと何をしたかわからないので記録させている

何をしたか説明できないと語る力がつかない

リフレクション力、内省力につながる

校外に行く日を設定したい My探の時間はPCに向かうのみが現状。活動させたい

全教員が携わっているが、ゴールがわからない。

A. 探究の時間1~2時間しかないので各自で進めておいたものを発表する時間にしている T もいる この日は

ゼミ(成果物をもちよって共有する時間(発表))だよと決めることも 一人(1グループ)20分 質疑応答含む

長期休みに自分たちでフィールドワーク →なぜそこに行き、何をしたのかを発表する準備→ゼミで発表

3・4限昼休みと時間をとってインタビュー等にかけることも。

上中中はどんな力を身に付けさせるためにするのか？

自ら学ぶ力を身に付けさせたい。主体的にさせたい。→自分の興味のあることに対する探究

昨年は、探究すること自体を楽しめるようにした

ネット検索で終わったりして深く調べられなかったので、今年は課題設定に時間をかけ、SDGsにも絡めた

課題設定について 教員自身もわからない課題をどう深めさせるか??

○○について という課題は脱線することも

仮説が立てられる問いが大事

誰かのためになる課題がよい課題

何のために調べたということが言えるように

テーマ設定の枠の作り方?? SDGsにつなげるといって受けの良い課題に設定しがち

A. 好きなテーマを突き詰めていくとSDGsのどこかにつながる

よい問いとは何かを教員間で共有し、それが生徒に伝わっているか?

課題設定能力→指導→評価

中学生の段階でそこまで仮説検証する力があるのかどうか

教科書内容を覚えるだけでなく深めて調べることで新たな問いが出てくるようにしたい

うまくいけば高校までつなげられるようにしていきたい

仮説→検証＝検証可能な問いをたてないといけない

最終的には成果ではなく、問いを自分で建てて検証して考察して新しい問いをつくる、探究のサイクルを回すこ

とで付随してくる様々な力をつけてほしい

スピードやサイクルの回数ではない

外にインタビューに行く、専門家に指導いただく、指実験してみる

分野は?ターゲットは?すばまっていく

サイクルを回し充実感を与える。大事なこと

文系の場合

その分野の成功事例と失敗事例を調べる

わかっていることとわかってないことをはっきりさせる

わかっていることは読めばOK(本や論文)

読んだけどわからなかったところは何?そこを検証しよう

それやったら誰にとって意味あるの?いいの?

ターゲットを誰にするか

● 4Gメンバー:竹村先生(嶺南教育事務所)、小西、寺本、深水、教頭

テーマ:My 探究の悩みについて、生徒との関わり

・特別支援の生徒とのマンツーマン指導での悩み

「My探究の進め方がわからない」「My探究の時間がパワポ作成の時間になっている」

「計画性のなさ」

→次回のMy探の計画をたてる時間をとる
活動の最初と最後に振り返る時間を
自分の探究を少しずつでもアウトプットしていく時間が大事
成果を話す時間をつくる

- ・探究のスキルを教えていく、進めていくうえでのやり方
結果的に成果ができなくても、調べる・まとめる・伝える手順を知るだけでも探究をやっていく意義がある
理科学研究のような流し方を教えていく
- ・今の教員の在り方は？教師の負担の大きさ
「生徒同士の同じようなテーマでの交流あり？」「先生の得意分野を示す」「学年を解いて」
「教員は内容的な質問受け付けませんスタイル」
- ・SDGsへの関連について
→探究を進めていった先にSDGsとのつながりが見えてくる。
- ・探究を進めていくうえで、人とかかわることを必須にしてもいいかも(できれば外部と)
- ・探究は大きいサイクルの中にも、小さいサイクルがある
探究の“ゴール”の存在、ゴールに行きつかなくてもOK！